

環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング発表資料

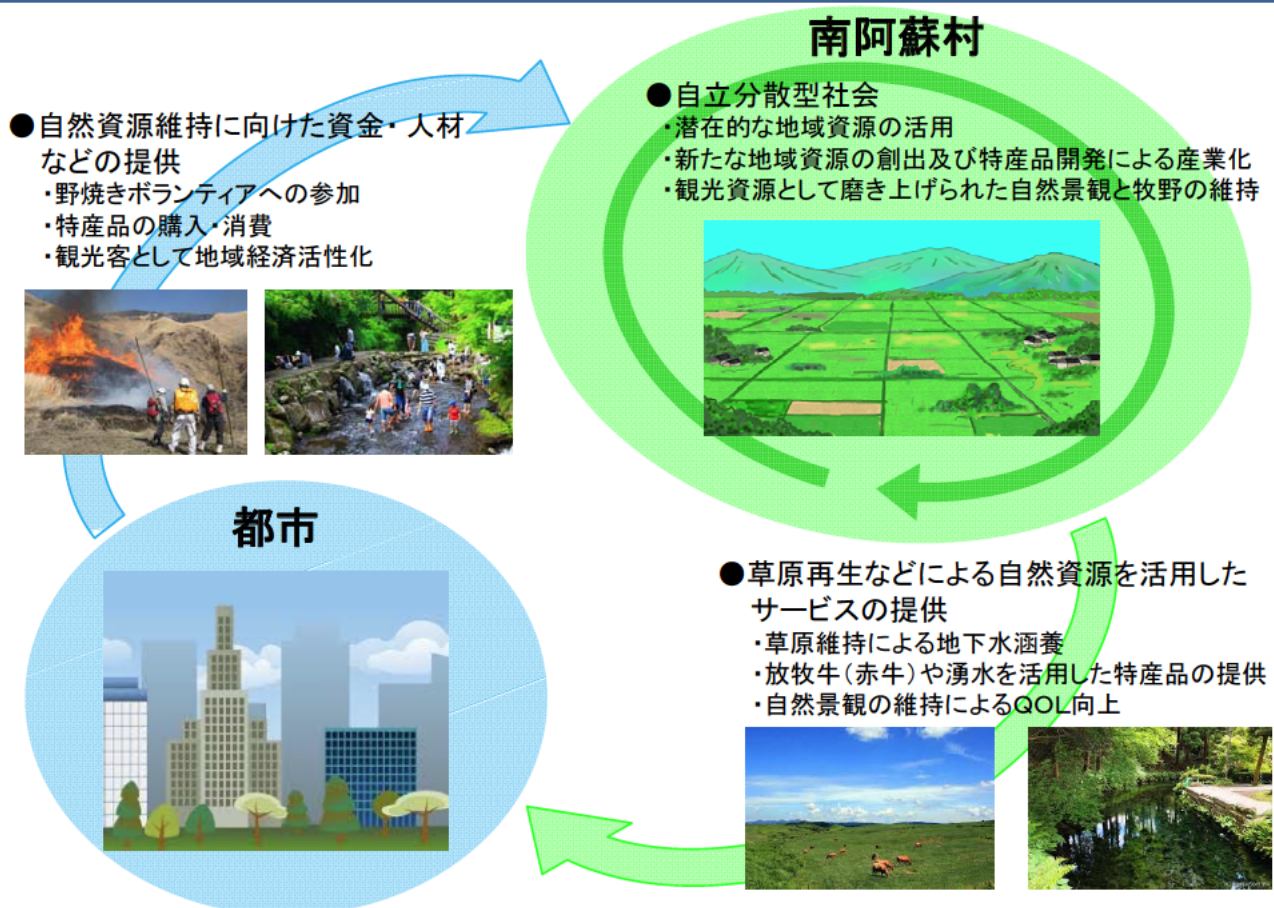
活動団体名：熊本県、南阿蘇村

活動地域：熊本県南阿蘇村

活動におけるテーマ

湧水や自然景観を活かした地域活性化

地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿



地域の現状と課題

- 世界に誇る広大な草原景観・火山景観
 - ・国立公園の指定、世界ジオパーク登録や世界農業遺産認定
 - ⇒さらに、世界文化遺産をめざす

地域の現状

- 草原を源とする豊かな湧水
 - ・熊本都市圏100万人の水資源の供給源
 - ⇒さらに、九州の水がめとして6本の一級河川の源流域として約230万人の生活を潤す

- 2016年4月熊本地震の発生
 - ・阿蘇地域は甚大な被害を受ける → 観光業及び地域農業の衰退

危機

- 地域の社会状況変化
 - ・畜産業の衰退、野焼きの担い手不足・高齢化 → 草原維持の危機、草原面積の減少

- 大きなポテンシャルを最大限活かす
 - ・観光や農業のブランド化
 - ・草原の新たな資源化・商品化
 - } 現行の取組みを有機的につなげる

地域の強みを発揮

【南阿蘇村の地域資源】

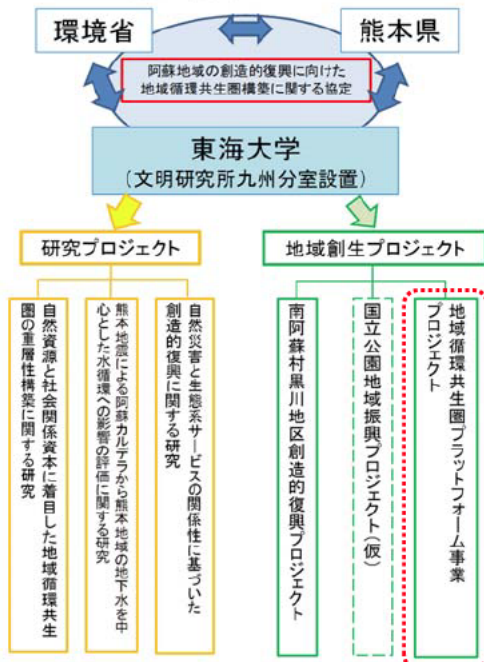
- ・阿蘇の自然が作り出す四季折々の風景や草原に囲まれた自然景観、草原が提供する生態系
- ・豊富な水資源に恵まれ、水稻やそば、あか牛に代表される農畜産物 など

地域循環共生圏を活用して目指す地域の実現のために

平成30年(2018年)1月17日

環境省・熊本県・東海大学の三者(南阿蘇村は立会人)により、「阿蘇地域の創造的復興に向けた地域循環共生圏の構築に関する協定」を締結

阿蘇地域の創造的復興に向けた地域循環共生圏構築に関するフレームワーク



- ・地域創生プロジェクト(南阿蘇村黒川地区創造的復興プロジェクト)を昨年度から実施
- ・本年度から研究プロジェクトもスタート
- 2019年4月20日キックオフミーティング開催(草原学習館)

今回の事業を三者協定における地域創生プロジェクトの一つに位置付け、熊本県、南阿蘇村及び東海大学が相互に連携し、取り組んでいく

【地域コンソーシアム構成メンバー(案)】
熊本県、南阿蘇村、東海大学、地銀、企業、NPO、住民代表(区長) など

協力・連携

- ・国立公園満喫プロジェクト
- ・阿蘇草原再生協議会
- ・三者協定に基づく研究プロジェクト など

今後の事業取り組み予定

○サブテーマ1 ～草原再生・地下水涵養～

(取組内容)

- ・草原維持の必要性の周知及び野焼き再開に向けた取組み
- ・草原が育む生態系の保全及び観光資源の維持
- ・草原の新たな地域資源(カヤ材、飼料、肥料)としての活用

(目標)

- ・草原再生による地下水涵養、観光資源の維持、牧野の限定的な観光利用の推進
- ・新たな地域資源(カヤ材など)の経済価値向上

(想定される効果)

- ・草原維持・再生、地下水保全、地域内への観光入込客数増加
- ・新たな地域資源の創出による産業化、地域活性化



○サブテーマ2 ～湧水等を活用した特産品生産と都市農村交流～

(取組内容)

- ・湧水を活用した特産品開発(水前寺のり、ミズゴケ、やまめなど)
- ・農畜産物のブランド化と都市農村交流

(目標)

- ・南阿蘇村ブランドの特産品開発による収益拡大
- ・国立公園満喫プロジェクトと連携した体験農業や観光農園、農家民泊などのグリーン・ツーリズムの推進

(想定される効果)

- ・農家の収益拡大による新規就農者の増加
- ・都市圏との交流促進による地域活性化



スケジュール (令和元年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定				◇請負業者決定 ◇事務局設置 ◇キックオフミーティング				現地意見交換会		◇中間報告書提出期限 活動団体成果報告書提出◇		◇成果発表会 ◇シンポジウム
ビジョンの策定					◇サブテーマ1に係る課題整理 ◇サブテーマ2の進捗状況把握			◇テーマごとの対応案整理 (サブテーマ1) ・課題解決策検討 (サブテーマ2) ・商品化等に向けた検討		◇テーマごとのビジョン案策定		◇テーマごとのビジョン策定
ステークホルダーの巻き込み					◇地域コンソーシアム設置			◇テーマごとにステークホルダー検討		◇サブテーマ2のステークホルダー組織化		◇サブテーマ1のステークホルダー組織化